

令和3年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
畜産部門

地元酒粕給与による「ほろよい豚」を生産する家族養豚経営

○氏名又は名称 有限会社 飯田養豚場（代表 飯田 一志）

○所在地 青森県上北郡横浜町

○出品財 経営（養豚）

○受賞理由

・地域の概要

横浜町は、青森県下北半島の首位部に位置し、陸奥湾に面する126.55平方kmの臨海山村で、特産品は水産物の「なまこ」と「ホタテ」である。人口は約4,400人、農業就業人口は459人である。総農家戸数160戸のうち畜産農家は43戸、うち養豚農場は2戸である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

昭和57年に父親から繁殖母豚50頭の経営を継承し、現在は260頭規模の一貫生産を家族労働で実践する優良経営農場で、衛生管理を重視し、かつ地元食材を活用したブランド豚肉を生産し、優れた生産性・収益性を実現している。

・受賞者の特色

（1）衛生管理を重視したブランド豚の生産

衛生管理を重視する観点から、全ての繁殖母豚を人工授精で自家生産、平成31年には農場HACCP認証も取得し、地元酒粕粉末を添加した飼料給餌によって肥育したブランド豚「ほろよい豚」を生産している。

（2）家族労働中心の優良経営

経営者夫妻、長男と長男の妻、長女、5名の家族労働中心で、全員が明るく、楽しく養豚に従事しており、「家族経営協定」も締結して、優れた生産性・収益性を実現している。

（3）女性の活躍

5人の家族が主たる労働力であるが、うち女性が3名で、その業務分担を明確化し、労働環境整備に努めている。

・普及性と今後の発展方向

堆肥は近隣野菜農家へ散布し、地域の耕畜連携に大いに貢献している。現在、繁殖母豚300頭規模拡大を目指し、豚舎・関連設備の新築を進めている。今後、繁殖母豚500頭規模の一貫養豚生産を目指しており、数年後には長男への経営権の委譲を検討するなど将来を見据えた経営を行っている。